

うどんこ病抵抗性、安定した食味・輸送性の高い緑肉種
春作這栽培・立栽培、秋作立栽培用

ホームメロン アムス

特性と栽培方法



標準作型

地域	月	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9
九州	ハウス			●	●	●	●	●	●	●	●	●
	ニハウス			●	●	●	●	●	●	●	●	●
四国	ハウス			●	●	●	●	●	●	●	●	●
	立・半立			●	●	●	●	●	●	●	●	●
東海	ハウス			●	●	●	●	●	●	●	●	●
	ニハウス トンネル			●	●	●	●	●	●	●	●	●
関東	ハウス			●	●	●	●	●	●	●	●	●
	立			●	●	●	●	●	●	●	●	●
東北	トンネル			●	●	●	●	●	●	●	●	●
	立			●	●	●	●	●	●	●	●	●
北海道	トンネル			●	●	●	●	●	●	●	●	●
	ハウス			●	●	●	●	●	●	●	●	●

● 播種 ☆ 定植 ▼ 交配 □ 収穫

品種特性

- 果実は、1.2~1.5kgの球形または腰高、果皮は緑色で縦縞があり縞以外の部分にはネットができる。
- 果肉は厚く緑色で、可食部が多い。標準糖度 15~16度
- 肉質は収穫後徐々に軟質多汁となり、3~5日で食べ頃になり、発酵しにくいため適期はその後5日くらい続く。
- 果皮が薄く、果肉が果皮近くまで軟化するため押し傷はつきやすいので、輸送中の各種腐敗病の発生に注意を要する。
- 成熟日数 九州(4月出荷) 60日前後、関東(6月出荷) 55日前後、東北・北海道(7~8月出荷) 50日前後。
- 雌花の着生は安定し、低温着果力も強いので蜜蜂交配で安定した着果が得られる。
- へたの離層の発現時が収穫適期であるが、過熟果の収穫は避ける。
- つる割病などの土壌病害には抵抗性を持たないので、接ぎ木栽培等の対策が必要である。
- 春作、秋作に適心し、各作型で安定した食味のメロンが生産できる。

栽培の要点

■作型と栽培様式

春作はハウス、大型トンネル、秋作はハウスでの栽培を原則し、
春作は這栽培または立栽培、秋作は立栽培とする。

■標準施肥量 (成分量 kg/10a)

N-10~12kg P-20~25kg K-15~20kg Ca-70~100kg 完全堆肥-2t 未満

■定植株間と温度条件

春作で葉間30cm(2本仕立ては株間60cm)、秋作で40cm以上に計画、定植時の地温は地下20cmで18℃以上、最低気温10℃以上を維持すること。

■定植後の温度管理

最高気温は30℃前後、最低気温は交配期前まで12~14℃、交配期から果実の肥大期15~17℃を目標とする。
外気温が15℃以上の時期は換気する。

■着果節位と整枝

一斉着果を心がけ、着果節位まで手のひら以上の本葉を12枚以上確保する。

■着果方法

蜜蜂交配を原則とし、蜜蜂が使えない場合は筆交配等の人工交配とする。

■灌水

果実が卵卵大~ネット発生前までが最も灌水が必要、その後肥大が終了する開花後40日頃まで適度な灌水が必要。

■収穫・出荷

収穫適期は離層が発現した時で、離層発現から5日間くらいは落果しない。外観の変化や試し切り・試食を行い総合的に判断し、早期収穫はしない。

■病害対策

つる割病などの土壌病害には抵抗性を持たないので接ぎ木や土壌消毒等の対策が必要である。

<這栽培>

子蔓2本仕立て 株4果収穫

<立栽培>

親蔓1本仕立て 株1果または2果収穫

子蔓2本仕立て 株2果収穫